

# 「柏崎の水」

## 妙法寺 湯の沢の湯

## 刈羽村<sup>あぶらでん</sup>油田 湯谷鉱泉（油田鉱泉）

妙法寺の大地主神社の由緒書には、温泉が湧き出している場所と思しき2つの地名が出てくる。

「地主ノ湯（湯ノ沢、湯ノ谷）両所ノ出湯八大神ノ御教ヘニシテ自ラ御病癒シ玉フ御跡ト言ヒ伝フ」  
湯の沢、湯の谷の具体的な場所を示す資料は無いが、同じ妙法寺の湯の沢という場所には、かつて「湯の沢の湯」があり、江戸時代に妙法寺村であった湯の谷という渓谷には「湯谷鉱泉」があった。

湯の沢には昔から鉱泉が湧き出していたという。鉱泉は無色透明で無臭だが、天気の良い日は澄んでいるものの、雨が降りそうになると濁ってくるとの記録もある。文政13年（1830）に椎谷藩主の許可を得て湯治場が開かれたが長く続かなかった。さらに明治38年（1905）には、草生水地区に鉱泉を引いて湯屋が建てられたが、これも長くは続かなかった。なお草生水の湯屋の設計書によれば、浴場には開閉が可能な障子窓を設けて自然光を取り入れ、浴槽は長さ約3メートルのものを中間で仕切って男女を分け、18の鉱泉を沸かして使用していた。



大地主神社

湯谷鉱泉は現在の刈羽村油田にあり、油田鉱泉とも呼ばれる。昭和8年発行の「新潟県温泉誌」には「油田の人家から離れること650メートル、妙法寺峠の麓にあり、眺望の良い高燥<sup>こうそう</sup>な地である。旅館は1軒で客室の総延坪35坪、鉱泉は裏山中腹にある」と書かれている。リウマチや神経痛、婦人病に効果があると言われ、地域の人が農作業の汗を流したり、油田の名産であった柿を買いに来た人が入浴するなど親しまれたが、集中豪雨による土砂崩れのため昭和30年代後半に廃業した。しかし平成4年9月に、地元の有志の方々により鉱泉が油田集落まで引かれ、日帰り入浴施設「幹の湯」が設置された。これは油田鉱泉を復活させ地域のコミュニケーションの場にしたい、という趣旨に賛同した源泉の管理者、農協、地域住民の協力があって成し得たものである。平成18年に施設の老朽化のため閉鎖されたが、その翌年の中越沖地震の際には、ガスや水道が止まって風呂に入れない人を支援するため臨時の入浴サービスが行われ、多くの被災者の病癒を癒した。度が高いこと

### 参考にした本

「神社明細帳」荒木宮内 編（170 N シン）  
「西山町誌」西山町誌編纂委員会 編（224 ニシ）  
「宿場町妙法寺の文化」池田政太 編（224 ニシ）

「新潟県温泉誌」新潟県温泉協会 編（290 N オン）  
「刈羽村物語」刈羽村物語編さん委員会 編（224 カリ）  
「中通村誌」中通村 編（224 ササ）